

## 会 議 録

会 議 名	八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 計画策定（若者）部会 令和元年度（2019年度）第3回会議	
日 時	令和元年（2019年）6月21日（月） 午前10時00分～12時00分	
場 所	八王子市役所 職員会館 第1会議室	
出席者氏名	委 員	眞保智子部会長、三入重夫副部会長、加藤悟委員、松井優佳委員、渡辺恭秀委員、（部会長、副部会長、以下五十音順）
	関連所管	
	事務局	中山子ども・若者支援担当課長、澤田子どものしあわせ課長、小池児童青少年課長、小野主査、後藤主査、田中主査、吉岡主査 他
欠席者氏名	大島達也委員、菅野周平委員	
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 若者支援の現状と課題</li> <li>2 6/17 庁内実務担当者会における主な意見について</li> <li>3 総合相談窓口、居場所について</li> <li>4 相談のしやすさ、伝わる周知について</li> <li>5 必要な支援について</li> </ol>	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 要因図（委員提供資料）</li> <li>2 市の主な若者施策一覧</li> <li>3 市における主な若者支援機関</li> <li>4 6/17 庁内実務担当者会における主な意見・論点</li> <li>5 視察報告（豊島区・世田谷区）</li> <li>6 窓口利用割合</li> </ol>	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	令和元年（2019年）7月31日 松井 優佳	

## 1 開会

【眞保部会長】 それでは開会します。今日初めて出席いただきました渡辺委員から自己紹介をお願いします。

【渡辺委員】 八王子市立公立中学校長会という立場で出席させていただきます。檜原中学校長の渡辺です。どうぞよろしくお願いいたします。

【眞保部会長】 本日の会議の会議録の署名は、松井委員をお願いします。前回の議論のさらいを事務局からお願いします。

【事務局】

(前回会議内容を説明)

【眞保部会長】 では、議題に移ります。

## 2 議題

### (1) 若者支援の現状と課題

【眞保部会長】 まず、若者の現状という点で、渡辺委員からお話を伺いたいと思います。

【渡辺委員】 中学校は、学力をつけるという点はもちろんですが、仲間と力を合わせて何かを成し遂げていく体験や感動などを通じて、コミュニケーション力や社会性の育成も行っています。どの学校も卒業後の姿をイメージしながら、学校の目標・計画を立て、進めています。

課題といえば様々ですが、やはり不登校は1つの課題であると考えています。平成31年3月31日現在で、八王子市の卒業生は4,402名。そのうち年間30日以上欠席した生徒が311名。そのうち進学した生徒は記録上264名。3月31日現在の数値ですので、その後進路が決まる者もいますから、全く決まらないという生徒は少ないのですが、残念ながら思うようにいかなかった生徒がいるのも事実です。

【眞保部会長】 質問はございますか。

全国的には、就職は少ないようですが。

【渡辺委員】 手元の資料ですと、先ほどの年間30日以上欠席した生徒のうち、3月31日現在での就職決定者は5名となっています。

【眞保部会長】 264名が進学したとのことですが、通信制の高校が充実してきたことが関係してまずでしょうか。

【渡辺委員】 そういう印象はあります。全日制が53名。定時制が79名。通信制が11

7名。通信制と言っても学校のような雰囲気サポート校で通信制の単位を取るというところが多く、本人や家族の要望を踏まえて、よく考えていらっしゃると思います。

**【眞保部会長】** 加藤委員から前回よりさらに詳しく書かれた資料をいただいています。説明をお願いします。

**【加藤委員】** 前回の資料に私の思いを加えました。「子どもと若者の自立・活躍に向けて」というタイトルで、ニートやひきこもりへの対策という観点でまとめてみました。

子どもがひきこもりになると、親として困ってしまいますが、本人はそれ以上困っていることを理解すること。家族の心の改善、チェンジが必要です。家で安心が得られれば、子どもは外へ目を向けます。コミュニケーションを改善するには、プライドを大切にあげ、ペースを合わせてあげる、共感してあげる、などが必要です。

支援の内容ですが、行政の窓口を「なんでも困りごと受付」とし、地域福祉推進拠点を窓口にしたらいいのではないかと思います。

周知のあり方については、ひきこもり経験がある有名人が語りかけるとか、あるいは4コマ漫画のようなPRの方法もあるかと思います。また、NHKの詐欺の情報提供の手法などを参考にするのもいいと思います。このあたりは八王子市だけではないのではなく、東京都が行えば効果的ではないかと思います。

私の場合、保健所に行き始めて、いろいろ教えてもらい、医療支援を受け始めることができました。さらに障害年金を受給できるようになると、子どもが自分で考えてお金を使えるようになり、社会参加ができるようになったと思います。

**【眞保部会長】** ご質問はありますか。

**【松井委員】** いろいろな支援があったと思いますが、一番大きかったのは。

**【加藤委員】** 保健所ですかね。保健所が訪ねてきたり、保健所に出向いたり。

家族の会というのがあって、親として参加していました。家族の集まりの中に専門的な資格があるような職員が入って、そこでいろいろ有益な話を聞くことができました。医療支援のような経済的負担の軽減も助かりました。ただ、保健所でそういう支援をしてくれることを知りませんでした。私の場合は、病院の先生から教えてもらいました。

**【三入副部会長】** 相手を変えるには自分を変えないとだめだ、というのは同感です。ちょっとしたきっかけで学校に行けなくなるということは、ありうることで、その時に家族や周囲の大人がどう関われるか。その関わり方で、ずいぶん変わってくるのではないのでしょうか。

また、特に昔は精神科、心療内科のような病院への抵抗感がありました。日本人の「恥ずかしい、隠す」という恥の文化も踏まえて、どう支援の扉を開いていくかは、それはそれで難しい問題ではあります。

【眞保部会長】ありがとうございました。では、次に移ります。

## (2) 6月17日 庁内実務担当者会における主な意見について

### 【事務局】

(資料2「市の主な若者施策一覧」、資料3「市における主な若者支援機関」、資料4「6月17日 庁内実務担当者会における主な意見・論点」について説明)

【眞保部会長】納税相談の窓口から、困難を抱えている家庭をどこかにつなげていますか。

【事務局】生活自立支援課から、生活困窮で前に進まないようなケースがあった時には、生活自立支援課の相談窓口を使うようにと伝えています。窓口の利用件数は増えていきます。

【眞保部会長】納税相談窓口は、他の窓口よりも行かざるを得ないと思わせる窓口ですから、そこを使った連携はいいと思います。

## 3 総合相談窓口、居場所について

### 【事務局】

(資料5「視察報告(豊島区・世田谷区)」について説明)

【眞保部会長】メルクマール世田谷は、何人くらい職員がいましたか。

【事務局】7～8人だったかと思います。

【眞保部会長】若い人たちが参加できるような居場所がいろいろな形で工夫されている感じがします。

八王子市であればどのようなところが使いやすいでしょうか。

【三入副部会長】児童館はいろいろな面でいいと思います。

【眞保部会長】児童館の活動は、ボランティアに頼っているのでしょうか。

【児童青少年課長】児童館は直営で、地域にも協力していただきながら、職員が企画して実施しています。

【眞保部会長】児童館は、比較的健やかな人が利用しているイメージがありますが、行きづらくないでしょうか。

【児童青少年課長】不登校の子どもを午前中に受け入れ、居場所になっているケースもあります。

職員はいろいろな研修を積み重ねていて、スキルが高いです。若者支援に活用できればとも思っているところです。

【眞保部会長】制度上18歳まで、というところをどこまで広げられるか、課題もありますね。

【松井委員】例えばブックカフェのように自由に使える場所は、不登校とか非行とか関係なく、1つの行く目的にはなるかな、と思います。そこがいろいろな窓口につながる総合窓口みたいになったらいいかな、と思います。

大学生だと、子ども家庭支援センターのような場所に行くというのは想像しづらいです。

#### (4) 相談のしやすさ、伝わる周知について

【子ども・若者支援担当課長】視察の結果などを見ていただき、どういう相談窓口なら行きやすいとか、感じられたところがあれば教えていただきたい。

【眞保部会長】悩みを抱えている中学生の保護者などは、どんなところなら使いやすいくでしょうか。

【渡辺委員】保護者だと、やはり子ども家庭支援センターになりますでしょうか。

ひきこもりがちな生徒の場合は、生徒だけでなく、家庭全体を見てくれるスクール・ソーシャル・ワーカーの存在が大きいかと思います。

また、小学5年生と中学1年生の全員がスクールカウンセラーと面接を行い、相談できる関係づくりを進めています。さらに、相談できる、信頼できる大人を作ろうと、SOSの出し方教育という取組も始まっています。

【眞保部会長】スクール・ソーシャル・ワーカーの役割が大きくなってきているという認識があります。

また、スクールカウンセラーによる全員面接、SOSの出し方教育は、すごく重要だと思います。かつては家族で、本人で解決するという意識があった中で、それが少し変わってくるきっかけになると思っています。時間はかかるでしょうが、成果は出てくるでしょう。

では、若い方への広報、その媒体はどういったものが好ましいでしょうか。松井委員、

大学生くらいが目線だと、どうでしょう。

【松井委員】自分で調べないと情報にたどり着かないということでは、好ましいとは言えないと思います。ただ、自然に目に入る場所というのも、なかなか思いつきませんが。

【眞保部会長】若い人は、新聞を取ってない人も多いですよ。市の広報は見ますか？

【松井委員】若者は見ないですね。

【眞保部会長】若い人は何を見るのでしょうか。駅の広告とか。

【松井委員】駅の広告は目に入ります。

【眞保部会長】コンビニはどうでしょうか。

【渡辺委員】そういうスペースは、お金がかかる場合が多くありませんか。

【眞保部会長】名刺サイズの媒体を作って、レジのところにおいてもらうとか。社会貢献ということで本部に頼むとか。

【子ども・若者支援担当課長】青少年健全育成の協力店というものがあるので、そういうところへの依頼も考えられるかと思います。

また、途切れのない支援という視点から、中学校の段階で周知する方法はないでしょうか。

【渡辺委員】当校では、卒業プログラムとあって、卒業して社会に出ていく生徒たちに、どのような力を付けて送り出すのか、教員に考えて実践するようお願いしています。主権者教育、消費者教育など試行中ですが、その一環で、例えば若者支援の内容の講演を聞くとか、考えられるかもしれません。

【眞保部会長】教育もすごく進んできています。15歳なりに、生きていく力を考えさせる。特にSOSの出し方教育は、命にもかかわる大切なことだと思っています。

加藤委員、保健所は敷居が高くなかったですか。

【加藤委員】保健所で相談できると気づいていなかっただけで、敷居は高くなかったです。

【眞保部会長】一般市民目線では、保健所でそういう相談ができるというイメージがないですよ。

医師、保健師がそろっている機関で、使ってみるととても手厚い対応がある。

【子ども・若者支援担当課長】いかに最初の相談をしやすくするか、という点ではどうでしょう。

【眞保部会長】若者って、電話しますか。

【松井委員】しないですね。

【眞保部会長】入口の部分が、すでに電話ではないということです。

【加藤委員】市民センターに行くと、小学生くらいの子どもがトランプやゲームで遊んでいて、おばさんや学生がバドミントンしたり、サークル活動をしています。そういう場所になんでも相談室を設けるのも1つの手かなと思います。いろいろな人のつながりがあり、話しかけやすい環境です。

【眞保部会長】例えばラインとか、SNSのような、今までとは違う形のチャンネルを持つておくとか。

【松井委員】ラインなどは、時間を気にしなくてよくて、若者には手を出しやすいかと思っています。チラシとかにQRコードを載せて。気軽に連絡できるようになるかと思っています。

【眞保部会長】そこで予約もできればいいかもしれません。

電話は、若者にはハードルが高くて無理ですね。

【加藤委員】インターネットは信用できない情報が多く、気を付けなければいけません。

私はSNS、ラインは使っていません。

【眞保部会長】世代によってチャンネルが違うということですね。

【子ども・若者支援担当課長】保護者からの相談も多いので、考慮が必要かと思っています。

【加藤委員】紹介先に同行してもらえればよりよいと思います。

【眞保部会長】相談窓口にどういう機能を持たせるかということですが、次回以降も議論したいと思います。

## (5) 必要な支援について

【子ども・若者支援担当課長】生きづらさを抱えている若者には、伴走的支援によって少しでも生きやすくなるよう、さらには生きがいをもった社会的自立、そのようなことを目指していく計画になると思います。幅広い若者に対する応援を体系化していこうと考えています。

眞保部会長から提供していただいた資料がありますので、それについて部会長から説明していただけますでしょうか。

【眞保部会長】法政大学では、かつて八王子の小学校と連携して、小学生を招待し、いろいろなゲームやアクティビティをして、キャリア教育の一環といたしますか、大学の紹介も含めた「大学たんけん隊」というイベントがありました。そのイベントの復活を計画しています。現代福祉学部が中心になってのイベントなので、子どもには福祉のこと、

生きる力、命の教育などをテーマに伝えていくことができますし、保護者向けには心理学がセミナーを開くことができると思います。

学園都市ビジョンを持つ八王子市には21の大学がありますから、この取組が各大学に広がり、それぞれの大学で近隣地域の小学校を支援できるといいな、と思って紹介させていただきました。

**【子ども・若者支援担当課長】** 子どもにとっては様々な経験を積み、視野が広がるのが重要で、効果がいろいろ考えられます。八王子市にある大学との連携ですし、事業化していけるかどうか、検討していくことは大切かと思います。若者がこういうことをしてくれている、と見せていくことも八王子市の魅力の発信になると思います。

**【眞保部会長】** では、時間になりました。実務担当者会議の資料を見ても、相談窓口をどのような形で充実させるのが重要だと思いますので、今後もそれぞれの立場で意見を頂ければと思います。本日はありがとうございました。